

日本の五街道とは

◆江戸時代の主要陸上交通路であった。徳川家康が整備した東海道, 中山道, 甲州街道, 日光街道, 奥州街道のことで、いずれも江戸(日本橋)を起点としている。当時最も整備されていた街道で、おもに公用の道として使われた街道である。

◆江戸時代, 幕府は政治・軍事上の必要からこれを直轄, 道中奉行の管轄下に宿駅など整備し、一方関所を設けて統制を厳重にした。交通網の整備を重視した江戸幕府は、五街道を直轄して道中奉行に管理させた。箱根(東海道)などの要地には関所を設け、謀反の前触れたる“入り鉄砲に出女(江戸に入ってくる武器と、江戸から出て行く諸大名の江戸屋敷に住む妻女)”に、特に厳しい警戒の目を向けた。

◆名称は享保元年(1716)に幕府が公称を一定にしたが、民間では中山道を中仙道, 木曾街(海道)といい、甲州街道を甲州道中ということも慣用された。東海道は江戸より京都までの間に 53 宿あるので五十三次(継)という。また大津から大坂までも東海道として、間に 4 宿あり、東海道五十七次ともいわれる。中山道は江戸から上野, 信濃などを通り、近江の草津で東海道に接続し、間に 67 宿あり、中山道六十七次である。

◆江戸幕府が直轄する五街道およびそれに付接する諸街道の宿と沿道について精密に調査したもので、宿の戸口, 旅籠屋数, 問屋, 本陣, 社寺, 人馬賃銭, 高札, 産業など宿明細帳に近いものと沿道村の掃除場, 産業, 一里塚, 立場, 橋梁等まで詳しく記述している…

■日本橋から飛び立て～麒麟(きりん)

日本の道路の基点である「日本橋」に辿り着いた。橋の真ん中に、青銅の彫刻「麒麟像」が堂々たる風格で佇んでいた。東野圭吾原作の映画「麒麟の翼」の舞台となってから認知度が高まり、この日も外国人観光客やビジネスマンなど、多くの人がスマホのカメラを向けていた。

